

平成 18 年度学術ポータル担当者研修 レポート

落合 恭子 (受講者番号: 9) 東京工業大学 学術情報部情報図書館課情報企画係
小野 理奈 (受講者番号: 10) 東京工業大学 学術情報部情報図書館課分館情報係

(1) 発表資料の状況設定

前提: 現在, 本学においてシステム構築中の機関リポジトリ「Tokyo Tech Research Repository」(以下 Research Repository という。)が完成し, 運用を開始している。

状況: 例年行われる本学新任教員へのオリエンテーションにおいて, 機関リポジトリについての案内を行うための機会を得た。

以上のとおり, 現時点(今年度中)において可能な状況ではなく, システム完成後の近い将来についての状況を想定しての発表資料となっている。

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

○発表内容抄録

1) 本学機関リポジトリ構想の概要と、「Research Repository」の位置づけ

東京工業大学では, 全学的な学術機関リポジトリとして, 「Tokyo Tech STAR」というシステムを構想している。Tokyo Tech STAR は教育コンテンツの蓄積・発信を行う「CourseWareHouse」, 研究コンテンツの蓄積・発信を行う「Research Repository」およびその他の研究成果物を蓄積・発信・展示を行う「Digital Museum」の3つのシステムから成り立っている。

2) 「Research Repository」活用のメリット

メリットとして, ① 研究成果を登録することで, 研究成果を広く発信し, 多くの人に見てもらえることができる。② 入力データの多目的な活用(業績リストや各種報告書類に求められる論文リストを簡便に作成できる)。③ 学内の他システム(認証システムや研究者情報システム)との連携, の3点を主にアピールする。

3) 各教員への依頼事項

教員が各自で入力を行い, 論文情報および論文本文を登録するシステムであること, 本文の公開に関わる権利関係の処理は, Research Repository 担当部署が行うこと, を説明し, 合わせて入力画面の URL, 連絡先の提示を行う。

○研修発表で頂いた助言等

- ・全体的に, もっと Research Repository システムのメリットを強調する内容にした方が良い。
- ・Tokyo Tech STAR 全体を説明し, その中での位置付けについて話すのではなく, Research Repository のシステムのみの特化した説明の方がわかりやすいと思われる。教育コンテンツのシステムである OCW 部分の説明は不要ではないか。
- ・教員への依頼事項については「How? 何をすればよいか?」という小見出しをつけていたが, たとえば「先生方にしていただくこと」のような直接的な表現とし, あわせて教員にとって楽になる部分を前面に押し出した方が良い。

○研修発表との改定部分

- ・概要説明の部分を簡潔にし、OCWについての説明を省いた。
- ・「Tokyo Tech STAR」の概要説明の図を改訂し、文字を大きく、わかりやすくした。
- ・「How? 何をすればよいのか？」を「How? システムへの登録方法」とし、内容の充実をはかった。

(3)リハプレゼンの概要

日時：2006年10月10日 10:00～

場所：東京工業大学附属図書館4階会議室

発表者：落合

発表対象：東京工業大学リサーチリポジトリワーキンググループ（RRWG）の各委員
（教員6名，事務職員5名）

※(1)に記載のとおり、現在システム構築中であるため、発表に際して想定したものと同等の状況を設定することができない。代わりに、現在リサーチリポジトリの構築を担当しているワーキンググループを対象にプレゼンを行った。ワーキンググループの各委員は、今後学内教員に対して広報活動を行うことを予定している。当日のワーキンググループでは、今後の広報活動が議事の一つとなっており、主査の先生の同意を得て、本研修資料を配布資料の一部とし、説明を行った。

(4)リハプレゼンへの反響

- ・新任教員といっても、採用されたばかりの助手とベテランの教授では、メリットと感ずる事柄も異なると思われる。例えば前者は各種業績報告等の煩わしさをまだ実感しておらず、ここでメリットとして挙げられている事柄が理解できないのではないかと。また、若手の研究者の場合は、業績が少ないため、入力自体にもあまり抵抗がないのではないかと。立場によってメリットとなる事柄は異なるため、そうした違いを吸収した上で広報を行う必要があるのではないかと。
- ・「What」「Why」「How」という観点からの説明だったが、これに「Who」を加え、これらを組合せて広報するのが良いのではないかと。
- ・今回は、学内教員への広報を念頭に置いた発表となっているが、その他に学外に向けての広報活動やその内容についても考えていく必要がある。
- ・若手研究者にとってのメリットは「大学をあげて、あなたの論文を公開する場を提供します」ということに尽きるとと思われる。後は、将来に向けての保管ということもアピールポイントになるだろう。
- ・広報活動の一環として、学内広報誌に機関リポジトリについての記事を掲載することを計画している。公的なところでしっかりと記事を掲載しておき、それを「大学としてこんなに力を入れている事業なのですよ」というふうで紹介するのも有効ではないだろうか。
- ・入力が簡単であることや豊富な利用例を紹介するとよいと思われる。

(5)その他

- ・現在，学外および学内教員への広報手段の一つとして，ホームページの作成を予定している。ホームページ案の作成を担当している教員から，案を考えるにあたり，事前に提出のあった今回の研修発表の資料も参考にしたというコメントを頂いた。

以上